

令和5年度 社会 授業改善推進プラン

大田区学習効果測定 結果の分析

- 4年生：校内平均正答率が、目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎については、目標値から8ポイント下回っている。領域別正答率も全て目標値を下回り、特に「安全を守る働き」については、目標値から10ポイント下回っている。内容別正答率については、「安全な暮らしー火事ー・一事故や事件」について資料の読み取りや消防・警察の仕事内容について実生活とつなげて考えることが、課題である。
- 5年生：校内平均正答率が、目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎・活用についてもともに目標値を3ポイント程度下回っている。領域別正答率も「特色ある地域の様子」以外の4領域で4～8ポイント下回っている。内容別正答率では、目標値を上回るものもあるが、区平均は、下回っている。特に「自然災害から暮らしを守るー地震」については、目標値を8ポイント下回る結果となった。資料を読み取ったり、資料をもとにして考えたりする問題に課題が見られる。
- 6年生：校内平均正答率が、目標値・区平均・全国平均を上回った。基礎・活用についてもそれぞれ1ポイント・7ポイント上回った。領域別正答率で目標値を下回るものは、「農業や水産業」のみである。また、区平均は、全て上回っている。内容別正答率では、「日本の水産業」のみが目標値を大きく17ポイント下回るが、その他の内容は、目標値を上回っている。資料やグラフの読み取りに課題が見られる。

【観点別正答率の分析】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4・5年生は目標値を下回る結果となった。 4年生は、「買い物調べ」「安全な暮らし」についての問題、5年生は、「自然災害から暮らしを守る」の問題、6年生は「日本の水産業」についての問題の正答率が低く、資料やグラフの読み取りや内容の正しい理解に課題が見られる。	4・5年生は目標値を下回る結果となった。 4年生、「市の様子の移り変わり」「くらしの移り変わり」の問題、5年生は「先人の動き」、6年生は「日本の水産業」の問題での資料をもとに考えたり、表現したりすることに課題が見られた。	4・5年生は目標値を下回る結果となった。 4年生は、児童にとって身近な内容については、記述問題でも目標値を上回る。 5年生は、「都道府県の様子」などの内容で記述問題に課題がある。 6年生は、概ね自分の考えを記述式で表現したり、地図や日本についての基礎内容を理解したりできている。

課題＜今回の調査結果から＞

- 知識・技能においては、学習内容において児童にとって「身近であるか否か」が大きな理解の差を生んでいる。各学年「スーパー」「水・ごみ」「日本の国土」などについては、実際に見学をしたり、まとめたりすることで定着すると思われるが、その他の「火事」「先人の動き」「水産業」など実際に体験や見学することが難しい内容についてのフォローが重要である。学習の定着を図るためには、教科書の資料や写真を丁寧に読み取ったり、考えをまとめたりすることや知識として地図記号や定着させるべき語句などについては、触れる必要がある。映像資料を活用したり、教科書「学び方コーナー」にある各種資料の読み取り方を理解させたりすることで学習内容に触れる機会を多くしていく必要がある。
- 思考・判断・表現においては、各学年において資料を基に正答を判断したり、その社会的事象が起きている理由について表現したりすることに課題が見られた。資料の読み取りなどの技能は、授業中などに意図的に機会を設けて身に付けさせていく。それに加えて、読み取ったことをもとに表現する学習活動も新聞作りやプレゼン資料作りなどで行っていく。
- 主体的に学習に取り組む態度については、自らの学習と実生活を振り返ったり、つなげたりして学習をすすめることが重要である。身近な事象やニュースなどに授業中だけでなく、日常生活の中でも触れることで、社会の一員としての意識や考え方のコツを掴めるのではないかと考える。朝の会の1分間スピーチや新聞記事についての自分の意見の発表など、社会科の学習に触れる機会を多くしていく必要がある。